

『はじめての道徳教科書』 指導案の活用のしかた

1 はきものをそろえると心もそろろう (藤本幸邦)

1. 学習指導要領の内容項目

1-(1) 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。

2. 本時の指導

① 本時のねらい

- ◎ はきものをそろえると心もそろろう理由を考えることを通じて、節度を守り節制に心掛けて生活をしようとする実践態度や態度を養う。
- だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。 <2-② 思いやり、親切>

② 本時の展開

主な学習活動と主な発問 (○=発問)	指導上の留意点
1. 「はきものをそろえると心もそろろう」を讀んで話し合う。 ○「はきものをそろえると心もそろろう」とはどういうことなのか話し合う。 ・スリッパをきちんとそろえると、気持ちも落ち着くのはよくわかる。 ・慣れてトイレのスリッパをそろえられなかったことがあった。 ・だから、思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすることが大切。 ・靴をそろえただけでなく、自分の行動を振り返ることが大切。 ・気持ちがイライラしているときに、思っていないことを言って人を傷つけてしまいがち。 ・自分を振り返る時や悔やんでなければいけない。 ○「だれかがみだしておいたらだまってそろえておいてあげよう そうすればきっと世界中の人の心もそろおうでしょう」と聞いて、どんなことを思い出したか。 ・人の分までそろえてあげる量はほとんど無理だと思ふ。 ・自分さえよければいいという考え方はいけないと思ふ。 ・みんなが人のスリッパでそろえられる嬉しい心もちが大切。 ・そろったら世界中の心が一つになる。 ○自分の生活を見直し、これから努力したいこと (節度・節制に関する課題) を明らかにする。 ・ろうか走っていないことは分かってはいるけど、急いでいるからと走っていた。これからは、落ち着いて正しく行動したい。 ・人が残っているのだから、きちんとしたいと思ふ。 ・自分のことだけでなく、みんなのことを考えて行動したいと思ふ。 ○ワークシートに書く。 ・素晴らしい習慣が世の中をよくすることになる。 ・児童の実践態度が高まるように授業を締めくくることが出来るようにする。	・靴やスリッパをきちんとそろえるためには、気持ちが落ち着いていることが大切であることをおさえる。 ・靴だけでなく、自分の行いについても振り返ることが求められていることについても考えさせる。

1. 学習指導要領の内容項目

この資料で学習する学習指導要領の内容項目が書かれています。

2. 本時の指導

① 本時のねらい

- ◎ ……内容項目に即した授業のねらいが書かれています。
- ……◎の項目で示したねらい以外で、資料の中に含まれていて本時で取り上げたい内容項目に即したねらいが含まれています。

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』には、「道徳の時間の指導に当たっては、項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連付けたりして、実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。」と書かれています。しかし、実際には1時間の道徳の授業では、一つの内容項目しか取り上げない場合がほとんどです。

しかし、本書で取り上げている実在の人物の生き方は、一つの内容項目だけで括ることはできません。そこで、主なねらいを一つ定めた上で、関連価値も授業で取り上げることにしました。

【参考】文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』第3章3-(1)ア

具体的な場で道徳的行為がなされる場合、「第2 内容」に示されている一つの内容項目だけが単独に作用するという事はほとんどない。そこでは、ある内容項目を中心として、同一視点内及び他の視点にある幾つかの内容項目が関連し合っている。例えば「第5学年及び第6学年」の場合であれば、2の(1)「礼儀正しく真心をもって接する」ためには、2の(2)「だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立つ」ことが必要であるし、また、4の(4)「社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」ことは、2の(5)「日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる」と密接にかかわっている。

道徳の時間の指導に当たっては、項目間の関連を十分に考慮しながら、指導の順序を工夫したり、内容の一部を関連付けたりして、実態に応じた適切な指導を行うことが大切である。そして、各学年段階を通して、全部の内容項目が調和的にかかわり合いながら、児童の道徳性が高まっていくように工夫する必要がある。

② 本時の展開

◆ 導入の省略

資料の内容や長さによっては、導入を省略していきなり資料を読むところから授業が始まる展開もあります。

これについては、現在の道徳授業の元を作られた元文部省視学官の青木孝頼氏も次のように述べています。

「中心資料における価値の把握追求が、いきなり資料にはいってうまくいく場合には導入は省略したらどうか……」(『道徳教育』No. 100)

◆ 展開後段

通常道徳授業においては、資料について学習した後、ねらいとする道徳的価値に照らして自分の経験を振り返る指導過程があります。しかし、本書で取り上げている偉人の偉大な業績について学習した後、「自分はどうだったか振り返ってみましょう」と訊かれても、子どもはとまどうと思います。

そこで、今回の指導案においては、展開後段を設けず資料についての学習を深めたり、「資料の中の登場人物から学んだことは何か」「本時の学習を元にこれからどのように生きていきたいか」などについて考えさせたりすることにしました。

3. ワークシート

ワークシートには基本的に書く欄を二つ設けて、一つは資料の学習について書く欄とし、もう一つは展開後段で書く欄としました。ただし、資料によっては二つとも資料の学習について記入する場合や一つの場合もあります。

実際の授業においては、どちらか一つだけ記入するようにしてもかまいません。適宜、授業者が使いやすいよう自由に活用してください。

1 はきものをそろえると心もそろろう (藤本幸邦)

名前 []

○「はきものをそろえると心もそろろう」とはどういうことだと思いますか。

○自分の生活を見直し、これから努力したいことを書きましょう

生活チェック

- 1 家族や先生・友達に、自分からあいさつしている。
- 2 靴やスリッパをいつもきれいにしている。
- 3 ロッカーや箱の中はいつもきれいにしている。
- 4 ろうかや靴紐を走らず、静かに歩いている。
- 5 節制を守って生活できる。(箸では、残飯をしない など)

※他にもありそうですね、考えてみましょう。